

教授 橋本 裕明

教育上の能力に関する事項	年 月 日	概 要
◎教育方法の実践例 〈ドイツ語〉		ほとんどの学生にとって未学修であるから、まずは発音と基礎文法を集中的に教えた。とくに本学では、動詞の人称変化は現在時制の規則変化のみ、名詞の格変化も規則変化のみを扱った。こうした方法は〈ドイツ語Ⅱ〉でも同様で、2格支配の前置詞を排除し、形容詞も強変化は教えなかった。そうする中で、平易な長文の読解をくりかえし実践させた。〈ドイツ語Ⅲ〉の場合は、学習意欲が高い学生が対象となるので、ここでは中級入門を目指して、関係代名詞や接続法まで教えながら、比較的難解な講読を試みた。なお本学のドイツ語では「使える外国語」をつねに念頭に置き、実践的な運用という点にも心がけた。

<p>〈宗教文化論〉</p>		<p>西洋文化を理解する上で必須の知識を提供するために、ギリシア神話とキリスト教を中心に授業を展開した。そのさい原典主義をとりギリシャ語テキスト資料をつねに用いた。さらに周辺の知識としてユダヤ教、イスラムの思想世界を紹介し、エジプト、ローマなどの時代史も教えた。最後に、東洋に目を注ぎ、ブッダの宗教と大乘仏教、後者については浄土仏教（親鸞、一遍）、禅仏教（道元、一休）の思想を説明した。</p>
<p>〈図像学〉</p>		<p>その理論としては、エルヴィン・パノフスキーとルーロフ・ファン・ストラッテンの図像学理論を紹介し、後者に基づいて、西洋宗教画（神話を含む）の諸図像の解釈を試みた。</p>
<p>◎作成した教科書・教材</p>		<p>1. 〈ドイツ語〉に関しては、『アーメランRE』（朝日出版社）、 2. 〈宗教文化論〉については、フランシスコ会訳『新約聖書』と映像および作成プリント、3. 〈図像学〉においては、多くの映像資料と作成プリントおよび映画「二人のマリア」などを用いた。</p>

職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
<p>学生部長</p>	<p>～2017. 3. 31</p>	

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
<p>◎学位論文 「タウラーのキリスト信従とグルント神秘主義」</p>	<p>単著</p>	<p>2017. 3</p>	<p>筑波大学大学院人文社会科学研究科</p>	<p>論文博士として、「博士（文学）」の学位を授与された。 〈内容〉中世後期ドイツの神秘家説教者ヨハネス・タウラーの思想の独自性を明確にするために、師であるエックハルトとの比較を行ってその「信仰神秘主義」の立場を浮き彫りにし、その上で独自の魂論（神秘的合一のダイナミズム）を考察した。</p>
<p>◎学術論文 「H・ヘッセ『東方への旅』の魔術的機能—前期ロマン派ノヴァーリスとの関連において—」</p>	<p>単著</p>	<p>2017. 3</p>	<p>名古屋芸術大学研究紀要第38巻</p>	<p>ヘッセ最後の長編『ガラス球遊戯』（1943）と思想的な面で通底し、その基礎をなす、夢想的で幻想的な中編『東方への旅』（1932）の難解な物語を、ノヴァーリスの魔術的観念論（Magischer Idealismus）の立場から読み解くことを試みた。</p>